

# 医療リスクマネジメント演習

[演習] 第3学年 後期 選択 1単位

《担当者名》 小野誠司 近藤 啓 吉田 繁 坊垣暁之 池森康裕(看) 照光 真(歯) 吉本裕代(歯) 大桶華子(歯)  
岩本理恵(歯) 丸川活司 沖野久美子

## 【概要】

医療現場のみならず過去に発生した様々な事故案件を知り、当時の分析やその後の対応状況などを学ぶことで、実際に目前にある危機を予測したり、予防したりするための洞察力を育み、自らの危機予防能力を高め、現実世界で様々な遭遇する事例に対して備える事を目標にする。自分と患者様の安全を確保できる力を養う。

## 【学修目標】

- 1) 医療リスク, 医療過誤について理解し, その原因や対処について説明できる。
- 2) ヒューマンエラーの意味を理解し, その原因を説明できる。
- 3) 検体検査室で起きやすい過誤を理解し, リスクマネジメントについて説明できる。
- 4) 生理検査室で起きやすい過誤を理解し, リスクマネジメントについて説明できる。
- 5) 生理検査で必要とされる歩行困難患者を理解し, その適切な対処法について説明, 実践できる。
- 6) 一次救命救急の重要性を理解し, その方法について説明, 実践できる。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ガイダンス	・医療リスクマネジメント演習全般についてのガイダンス ・医療リスク, 医療過誤について理解する ・ヒューマンエラーの実体を理解する	小野誠司
2	検体検査室でのリスクマネジメント1	・採血で起こりやすい過誤と対処法 ・検体検査の過程で起こりやすい過誤と対処法	吉田 繁 坊垣暁之
3	検体検査室でのリスクマネジメント2	・病理検査, 細菌検査の過程で起こりやすい過誤と対処法	近藤 啓
4	生理機能検査室でのリスクマネジメント	・生理検査の過程で起こりやすい過誤と対処法	小野誠司
5	身体障害について	・身体障害とは? 1)視覚障害, 2)聴覚障害・平行機能障害, 3)音声・言語障害, 4)肢体不自由, 5)内部障害	池森康裕
6	患者の歩行介助	・歩行困難患者の誘導方法(実習)	池森康裕
7	車いすの基本操作	・車いすの基本操作と移動体験(実習)	池森康裕
8	患者の体移動実習1	・歩行困難患者, 車いす使用患者の検査用ベッドへの移動方法(実習)	池森康裕
9	患者の体移動実習2	・歩行困難患者, 車いす使用患者の検査用ベッドへの移動方法(実習)	池森康裕
10 ) 13	救急医療	・一次救命救急の実習(実習) ・当別キャンパスで実施	照光 真 吉本裕代 大桶華子 岩本理恵
14 ) 15	まとめ	・検査室での医療過誤を防ぐためにはどうしたらよいのか?グループで話し合い, プレゼンテーションをおこなう。	小野誠司 近藤 啓 吉田 繁 丸川活司 沖野久美子 坊垣暁之

**【授業実施形態】**

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

**【評価方法】**

レポート 100%

**【教科書】**

特に指定しない

**【参考書】**

ヒューマンエラーを防ぐ知恵（朝日文庫）

**【備考】**

様々な医療現場で実際に発生した事例などを参考に、どういうリスクが常に潜んでいるのか深く考える習慣を持つことで、より安全への強い意識を持つ。

5～9回目は実技をとまなう演習があるので動きやすい靴と服装で受講してください。スカートやヒールの高い靴では受講できません。

**【ディプロマポリシーとの関連性】**

（DP1）生命の尊重を基盤とした豊かな人間性、幅広い教養、高い倫理観を身につけている。

（DP3）保健・医療・福祉の各分野の役割を理解し、チーム医療の一員としての自覚とそれを実践するための専門性と協調性を身につけている。

**【実務経験】**

小野誠司（臨床検査技師）、近藤 啓（臨床検査技師）、吉田 繁（臨床検査技師）、丸川活司（臨床検査技師）、沖野久美子（臨床検査技師）、坊垣 暁之（医師）、照光 真（歯科医師）、吉本裕代（歯科医師）、大桶華子（歯科医師）、岩本理恵（歯科医師）

**【実務経験を活かした教育内容】**

実際の医療現場での事例を用いて、幅広い角度から緊急時への対応を学ぶ。